



鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい』

聖書(マタイ福音書5章44節)

牧師 河合裕志

イエスは敵を愛しなさい、なんて言うけどそんなこと人間に出来るものだろうか。それはとても無理なことでは？ 敵は私を悪く言う者、私を悪く扱う者、私に不利益をもたらす者、乱暴を働く者……こういう者を愛したり、ゆるしたり、仲良くするなどということはとても出来る相談じゃない。

こういう敵には憎む、激しく憎む、口をきかない、無視する、絶交する、復讐する、制裁を加える……これが本性に合ったことじゃない？ 理に合っている。

しかしイエスはこんな私達に向けて敵への愛を説き、こんなことを続けて言う。『あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである』。

いやはや天の父(神)を持って来る。この父の広大無辺の愛に目をとめよ、と言う。それは確かに太陽と雨は悪人、善人の区別なく降り注いでいる。あいつは悪い奴だから照らさず、降らさずにしておこうということはない。でもそれって単なる自然現象というものではない？ 何も神を持ってこなくても。

しかしイエスによれば、そして聖書の考え方は太陽は神の創造物。雨も水も。全て

の人間が生きて行けるように神はこれらのものを恵んでいるということ。

こんな神のお陰であなたは生かされている。同様にあの人もこの人も、憎々しい敵も生かされている。この大きな愛を覚え、この愛に押し出されてあなたも愛敵に一步でもすすめとイエスは言う。しかしこれにホイホイと従えれば世話ないけど人間はそんなに単純じゃない。もういい加減にしてくれ。マーティン・ルーサー・キングはその著『汝の敵を愛せよ』でこんなことを書いている。「敵を愛せよという命令は、ユートピア的夢想家の敬虔な指図であるどころか、われわれの生存のため絶対に必要なものなのである。敵をすら愛するということは、われわれの世界の諸問題を解くかぎである。

イエスは非实际的な理想主義者ではない、彼は实际的な現実主義者なのだ(蓮見博昭訳)。キングはこの命令に沿ってはやる同胞黒人をよく説得し、組織化し、敵である白人を愛するように導き、非暴力的な手段により公民権を獲得して行った。私達それぞれの置かれた所で神の公大無辺な愛を覚えて敵を愛し、ゆるし、友となる方向に一步でも踏み出せば誠に幸い。

集会案内

主日礼拝 : 毎日曜日午前10時15分

主日夕拝 : 毎日曜日午後6時

子どもの教会 : 毎日曜日午前9時

中高青年会 : 毎日曜日礼拝後

おしゃべり会 : 毎木曜日午前10時

聖書を学ぶ集い : 第4水曜日午前10時